



# 女川原発3号機

## 危ない

# プルサーマル計画を中止させよう

### 「原発に不安80%」「巨大地震が予想される中」で・・・燃料に猛毒のプルトニウムをまぜる・・・危険が多く益のない計画

東北電力(株)は十一月五日、女川原発3号機でプルサーマル計画を実施すると、宮城県、石巻市、女川町に事前協議を申し入れました。新潟県柏崎刈羽原発が中越沖地震で2000ガルを超える地震動を記録し、女川原発の耐震安全性が大問題になっています。また、度重なる事故で、東北電力が言う「安全神話」は通用しません。こうした時に、女川原発の3号機の燃料に猛毒のプルトニウムを混ぜ、営業炉でいきなりプルサーマルを実施することは、住民を危険な実験に巻き込むものであり断じて認めることはできません。

## プルサーマルとは？

普通の原発(軽水炉)のウラン燃料にプルトニウムを混ぜて使うこと。プルトニウムと熱中性子炉(サーマルリアクター)を組み合わせた造語で、「プルサーマル」と呼んでいます。

## プルトニウムは、猛毒物質

プルトニウムは、ウランに比べて1万倍から

1億倍も猛毒物質です。その毒性は、化学毒性より放射性毒性の方が問題です。プルトニウムが出すアルファ線は紙一枚で防げますが、原子や分子から電子をはじき飛ばす電離性の危険がずば抜けて大きい放射線です。したがって、呼吸器から吸入した場合の内部被爆による人体へのダメージがきわめて大きくなります。

原発で燃やす場合は、ウラン・プルトニウム混合酸化物(MOX)燃料として使います。



11月13日女川原発で火災発生。1人がやけどをし病院に搬送。10月3日にも火災を起こし、対策を発表したばかりでした。

## MOX燃料の使用実績は？

政府・電力会社は、MOX燃料は内外で十分な使用実績があると宣伝していますが、その実態はどうでしょうか。

日本では、敦賀原発と美浜原発で低燃焼度燃料の少数体実験、2+4体が行われただけです。新型転換炉「ふげん」は炉型がまったく異なるため使用実績には

ならず、開発計画自体も中止されています。東京電力・柏崎刈羽原発のプルサーマル計画は、新潟県刈羽村で01年11月に住民投票が実施され、反対多数で中止されました。

海外では、欧米諸国が原発の段階的廃止に踏みだし、プルサーマルを実施しているのは5カ国だけで、女川3号機と同じ沸騰水型原発では2基しかありません。

## 「住民をモルモット扱いでは」との

ウラン燃料を使っていた原発にMOX燃料を使うと、①自動車のブレーキに相当する制御棒の効きが悪くなる、②原子炉内の圧力と反応度が上昇して暴走し易い、③燃えにくいプルトニウムが溜まる、④融点が高い、⑤超長寿命で透過性の強い核種が増え、労働者の被ばくが増える...、これらが事故の際には相乗して被害を拡大します。

炉心へのMOX燃料装荷量は、欧米ではごく少数体なのに比べ、日本はプルトニウムの消化を目的に世界中のどこもやらないような桁違いに多い装荷を計画しており、危険性も重大化します。

研究炉での十分な実験も行わず、いきなり営業炉で実施するのは、住民をモルモット扱いにするものでは」との声もあります。

## 米核管理研究所が重大な警告

米核管理研究所のライマン部長は、原発の低濃縮ウラン炉心と比べてMOX炉心では、運転サイクルの終わりの段階で燃料棒に溜まる超長寿命の死の灰「アクチニド」が5・12〜26・8倍も多くなり、これが大事故の際に放出されると警告しています。

## プルサーマルの危険に反対の一点で

東北電力の女川原発では、近い将来予想される宮城県沖地震に「原発は大丈夫か」という不安が出ています。また相次ぐトラブルで安全管理の抜本的対策が講じられなかったにもかかわらず、火災が相次いでいます。原発に賛成でも、反対でも、原発で働く職員も、住民も、プルサーマルの危険に反対の一点で共同し、中止させましょう。

## プルトニウム過剰がプルサーマルの動機

日本の原子力開発は「トイレのないマンション」といわれながら、再処理を英・仏に委託し、原発を大増設してきました。その使用済み燃料の全量再処理でプルトニウムが過剰事態となり、海外で日本の核武装を懸念する声が高まり、日本は「余ったプルトニウムは持たない」を国際公約としてきましたが、それが破たんしたのです。そこで急ぎよ「プルトニウムの消化対策」として「プルサーマル」計画を出してきたのです。

## 「ウランの有効利用」ってほんまに？

政府は、プルサーマルを「ウランの有効利用」のためと宣伝しますが、それはMOX燃料を「高速増殖炉」に使った場合のことです。高速増殖炉は「もんじゅ」事故で止まったままです。普通の原発にプルトニウムを利用しても、1〜2割のウラン資源節約効果が得られる。原子力政策大綱だけで、再利用もできません。



発行 原発の危険から住民の生命と財産を守る会

連絡先 Tel. 0225-22-0960 (庄司)  
Tel. 0225-53-3614 (高野)

号外 (Pu-1)  
2008. 11